

## 第 33 回台日工程技术研討会・講師履歴書

	お 名 前	徳橋 亮治
	ロ - マ 字 表 記	TOKUHASHI Ryoji
	最 終 学 歴	大学卒
	専 門 分 野	橋梁工学、耐震工学
ご 勤 務 先 ・ 職 位	インフラ技術研究所 調査研究部 特殊構造研究室 室長	
主 要 職 歴	1997-2001 大日本コンサルタント株式会社入社／道路橋の計画・設計 2001-2002 独立行政法人土木研究所構造物研究グループ交流研究員 2002-2011 鋼・複合長大橋梁の詳細設計・技術指導 2011-2017 道路橋の耐震対策、広域防災・減災技術の研究開発 2017～ 同上 インフラ技術研究所調査研究部特殊構造研究室長	
主 要 論 文 ・ 著 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10 径間連続 PC 箱桁橋における 2018 年大阪府北部地震の地震観測記録と応答特性の評価, 第 38 回土木学会地震工学研究発表会報告集, 2018.9</li> <li>・鉛直成分が卓越した地震動による橋桁の振動および損傷, 第 73 回土木学会年次学術講演会講演概要集第 1 部, 2018.9</li> <li>・熊本天草幹線道路(国道 266 号大矢野 BP)の新天門橋(仮称)の設計, 橋梁と基礎, 2016.10</li> </ul>	
講 演 テ - マ	危機耐性を考慮した道路ネットワーク整備の最適化に向けた取り組み	
講 演 概 要	近年の地震被害や気象変動に伴う激甚災害を教訓として、防災・減災対策の強化が求められている。これまでの道路に対する災害対策は、構造物などの道路施設を個別に対象とした”点”の整備が大半であったが、今後は地域全体の防災・減災対策として道路をネットワークとして機能させる”線”や”面”の観点も取り入れた整備が望まれる。本講演では、危機耐性を含む個別の要素技術や、整備の投資効果の最大化・リスクの最小化を目指した取り組みを紹介する。	